

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200094		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西三荘(1階)		
所在地	大阪府 守口市 橋波西之町 1-6-11		
自己評価作成日	平成27年1月19日(月)	評価結果市町村受理日	平成27年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2793200094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年2月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.【日常生活】 何事もご利用者様と職員とが一緒に行い、ADLやQOL維持向上に努め、楽しく活気のある生活を提供させていただいています。
2.【豊富な年間行事】 初詣、節分、ひな祭り、お花見、端午の節句、七夕、夏祭り、秋の遠足、敬老会、クリスマス等の年間行事だけでなく、お誕生会、外出モーニング、ドライブランチ、おやつ外出などご利用者様の希望に合わせて実施できるたのしい家です。
3.【医療連携】 訪問診療、訪問歯科、訪問看護と連携し、ご利用者様の健康管理を行い安心できる生活を提供しています。
4.【職員研修】 本社研修以外に、毎月施設内研修を実施して職員のスキルアップと心のケアを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、法人の経営理念や事業所独自の理念の下地域との関係構築に努め、自治会に加入し地域の行事に積極的に参加して隣接の学校の文化祭に訪問する等、地域交流を深めています。職員は利用者を楽しみを持って暮らせることを大切に考え、毎日ホーム周辺の掃除や散歩に出かけ、花見や夏の盆踊り等の年間の行事だけではなく、モーニングやドライブランチを食べに行ったり、数日間外泊する利用者もいる等、利用者の外出の機会を多く持てるよう支援をしています。全体会議や日常の業務の中で様々な意見を職員が出して運営に反映し、「ほめカード」を作り職員間でそれぞれ業務の中で良かった点を記入して事務所に掲示し互いを認め合い協力しながら、利用者の思いに沿った支援ができるように取り組んでいます。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各階フロアに職員全員参加で作成した理念を張り出し、職員間で共有している。地域の方々への声掛けや地域行事参加に結びついている。	法人の経営理念と職員皆で作った事業所独自の理念を読み合わせる日を決めて職員間で共有できるようにしています。理念の下、日々職員間で話し合い実践できるように取り組み、特に地域とのつながりを大切に考え行事等に置いても地域交流を心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺清掃だけでなく、地区落語会、盆踊り、秋祭り、市民祭りに参加している。施設夏祭りには地域の方々を招待している。	地域の盆踊りへの参加や公民館の寄席を観に行ったり、市の祭りや隣接の高校の文化祭に行くなど、地域との交流を支援しています。自治会に入り秋祭りの神輿を事業所の前を通ってもらったり、事業所周辺を独自に清掃を行う等、地域とのつながりを深めています。また、パステルアートの講師がボランティアで来てもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する高校のクラブ活動応援の声掛け、赤飯を炊いた時など隣近所付き合いのお裾分けなど職員とご利用者様と一緒にいき、近隣の方々にあるままのホームの姿を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本社マネジャーも出席して、会社の状況や施設の状況を全てお伝えしている。ご利用者様、ご家族様、地区会長、地域包括の方々から出たご意見は必ず施設会議に諮りサービス向上に繋げている。	運営推進会議は2か月に1度、利用者や家族、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加の下で開催し、活動報告や方針の説明、意見交換等を行っています。法人の期が変わって最初の会議では、年間の行事等の予定について連絡しています。地域の情報をもらい交流を深めるきっかけを作ったり、意見から改善されたこと等の報告も行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当地域包括だけでなく、市の窓口へも報告や相談に行っている。地元ケアマネ会やグループホーム会に参加してご協力いただいている。	運営推進会議の報告で市の窓口へ訪問したり、グループホーム連絡会やケアマネジャー会議に市の職員の参加があり、不明点を確認する等で連携を深めています。市の職員が介護施設を巡り地域の方の介護の相談を受ける活動のための場所を提供して市の活動に協力をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員身体拘束の意味を理解し、実践に取り組んでいる。毎月の全体会議では拘束0の期間を確認し合っている。	入職時の研修や管理者が法人内で身体拘束防止の研修を受けて伝達研修をすること等で身体拘束防止について周知しています。研修後フロアの施錠を外すことを検討し職員で話し合い開錠に向け取り組んだり、言葉による制止にも配慮し、問題があれば注意したり、ケアの方法を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社入社時研修で実施。さらに毎年本社と施設内研修を実施して全職員身体拘束の意味を理解し、実践に取り組んでいる。「言葉の虐待」にならないよう「優しい声掛け」を実践している。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ会での研修を受講して職員に伝達している。またご利用者様で後見人制度を利用されている方がいるので、実際に後見人の姿を通して学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は管理者が主体となり、十分な時間をとってご利用者様、ご家族様のご理解をいただいている。ご利用内容の改定等は、運営懇談会などを通じて十分な説明を行い、ご理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、いつでもご意見やご要望をおっしゃっていただけるよう声掛けしている。また玄関には専用ポストを設置している。本社からは年に一度ご家族様に満足度アンケートを実施し、施設運営改善に役立っている。	事業所や利用者の情報を速やかに提供するようにし、家族が面会で訪問した際に意見を聞いたり、法人で年1回家族へアンケートを実施して意見を聞く機会を作っています。意見をを受けてクリスマス会の開催場所を公民館から事業所に変更する等、得られた意見は検討し運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	徹底討論徹底和解の本社理念のもと、毎月フロア会議と全体会議を実施して職員の意見を聴く機会を設けている。また職員の出勤時や退勤時には管理者から声掛けし、職員の日々の気づきを運営に取り上げる努力をしている。	月2回の全体会議や、年1回の面談や出退勤時等の日常の中で管理者は声を掛けて意見を聞いています。職員に業務分担に応じた委員があり、その委員としても意見や提案を出しています。入浴日の変更や掃除の方法など業務改善について等の意見が出され運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社「誰伸び制度」を全職員が理解し、やる気があればステップアップできる環境が作られている。また年に一度の職員希望調査で、本人の要望を優先して施設異動も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月本社で各種研修を実施。また各職員がスキルアップし、資格習得研修等が受講し易くなるように受講費用等の支援制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地元ケアマネ会やグループホーム会に参加している。フロアリーダーは本社フロアリーダー研修にて他地域のリーダーと交流。職員は本社の事故防止会議などで他地域の職員との交流を深めている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントではご利用者様より聞き取りが困難であれば、ご家族様や関係ケアマネ等の話を傾聴して現状を把握することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントでは御家族様が安心して話できるような場所と時間を想定し、話が尽きるまで徹底して傾聴している。またいつでも来訪時には気安く話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のニーズをしっかりと把握するように努めている。施設外サービス(訪問理容、訪問マッサージ等)なども十分ご説明して必要なものはご理解いただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の施設周辺清掃から居室やフロア掃除、調理、食器洗い、洗濯物たたみ等ご利用者様と一緒に、「有難うございます。」と感謝の言葉が飛び交う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様は、ご家族様に会えるのが一番うれしい—この事を大切に考えて、いつでも施設に来ていただけるよう雰囲気作りを行っている。イベントでは、なるべくご家族様が参加できるよう計画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	半数以上のご利用者様には友人知人の定期的来訪があり、フロアや居室で寛いでいただいている。馴染みのスーパーなどへは、買い物同行を実施している。	知人の事業所への訪問や電話があり、訪問の際には寛いでもらえるよう椅子やお茶等を準備し、必要に応じて間に入って会話がスムーズにできるように配慮しています。絵手紙や年賀状の発送の支援をしたり、自宅が近所の利用者と一緒に家を見に行く等、馴染みの人や場所との関係の継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活やレクリエーション、イベントにおいてご利用者様の個性を大事に生かしつつお互いが支え合う関係構築を支援している。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者様、ご家族様には何かあればいつでも相談に来れるよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネや計画作成者を中心としてカンファレンスを実施してご利用者様の思いや意向の把握に努めている。	入居時に利用者や家族の思いや意向を聞き記録を残し職員間で共有しています。日々の支援の中で利用者の様子から汲み取った思いは、ケア記録の中の特記事項として記録しています。思いが把握しにくい時は毎月のフロア会議で利用者個々に対しての支援について話し合い、思いや意向を汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様や御家族様、元担当ケアマネなど関係する方々のお話を良く聴くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の介護記録を毎日記録して現状の把握に努めている。26年からは「機嫌の欄」を作り、状態に合わせてどのような対応をしてその結果どうなったかを記録し、職員間で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様や御家族様、介護職員、医療関係者などの意見を聞いてモニタリングを実施している。モニタリングの結果を次期介護計画に活かすよう努めている。	入居時に利用者や家族の意向や思いを基に作成した介護計画は、3か月から6か月に1回評価表を使いモニタリングを行っています。状態に変化があれば随時、変化が無ければ6か月に1度介護計画を見直し、見直しに当たってはサービス担当者会議を開いて医師や家族の意見を聞き再アセスメントをして介護計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に必ず介護記録を確認して情報の共有を図り、状態の変化を発見して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	晴れた日の散歩、畑仕事やお買い物。お誕生日の外食付き添いなど、その時々に応じて柔軟性のある支援をしている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて、地元神社への参拝、公園や商店街、薬局、スーパーなどを利用している。また隣接高校の文化祭を見学したり、公民館の落語会を楽しんだりされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診していただいております。特に体調変化のあるご利用者様には予定日に関係なく診ていただいております。	入居前のかかりつけ医か事業所の協力医を選択可能で、現在利用者全員が協力医の往診を月2回受け、専門医へは家族の対応で外来受診をし、必要に応じ歯科治療や口腔ケアを受けています。毎週訪問看護による健康管理を受け、緊急時等の対応方法も家族に確認しており、状態に変化があれば24時間対応の訪問看護に連絡し指示を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に診ていただき、1週間の報告をしている。看護師からは訪問医師と職員に気付いた点や変化を報告し、訪問医師の指示が関係者全体に行き渡るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、提携病院の地域連携室と連絡をとり、ご利用者の状況の把握に努め、また担当医師より現状や今後の治療方針を教えていただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護の方針をご家族様に説明し、職員には診取り加算申請の旨を伝えている。本社では、看取りについての研修も実施されていて、全職員が施設研修として受講している。	法人で看取りの研修があり、管理者、ケアマネジャー等が参加しています。利用者の状態が進み、看取りを検討する際には家族、医師、管理者で相談し、事業所として対応できることを説明し、看取りの支援を行うかを決定しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年前からADEを設置し、急変に備えての研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。また緊急避難先の隣接高校へは、文化祭などの見学を通じて顔なじみの関係を作っている。	年2回昼夜想定で消防訓練を行い、内1回は消防署の立ち合いの下実施し、1階と2階で協力体制についても確認しています。災害時に地域の協力が得られるよう普段の交流から関係作りを行い、地域の方の参加がありました。また、水や食料の備蓄をしています。	

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症実践者研修や、認知症についての施設研修を実施して「ご利用者様に寄り添う馴染みの関係」を構築できるように努めている。	法人でプライバシーの研修があり、毎月の全体会議の後に伝達研修を実施する等、意識付けを図っています。利用者に目線を合わせ、言葉を選び利用者を尊重して対応するように努めています。家族の了解を得て利用者個々に合わせた声掛けをしています。崩れたり問題があればその都度注意し、職員間でも注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押しつけではなく、ご利用者様がご自分で自己決定できるように時間を十分にとってじっくりお話を聴かせていただくように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はゆっくり起きて朝食をとりたい方、風呂は毎日入りたい方、散歩は寒くても行きたい方、おいしい牛乳を毎日飲みたい方・・・それぞれの方のご希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の使い慣れた化粧品、装飾品などご家族様に購入をお願いしたり、買い物同行で購入したりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者納入の食材をご利用者様とともに、洗い、刻み、味付けをしている。またご利用者様の希望をお聞きして、エビフライなどのスペシャルメニューに変更することもある。	業者の立てたメニューに添って食材やレシピも届き事業所にて調理しています。利用者も調理に携わり、職員も一緒に同じものを食べ和やかな食事の時間となるよう支援しています。利用者の誕生日に希望のメニューを聞いたり、月に1、2回は普段のメニューを止めて特別メニューを実施しています。季節のメニューや外食を実施する等、変化を持たせて食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成するメニューでバランスのとれた食事を提供している。食事形態も粗刻みや極刻みも提供している。水分はゼラチンやスポーツ飲料も活用し、ご利用者様が摂取しやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。義歯は職員がブラッシングを行っている。訪問歯科が毎週来ている。		

グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄訴えのサインを見つけてトイレ誘導している。また紙パンツから布パンツへの移行も徐々に行っている。	排泄の記録を取り、利用者個々のパターンを把握して声掛けをしています。普段の様子からも排泄のサインを察知しトイレへ誘導しています。出来るだけトイレでの排泄を促進し、失敗が減り紙パンツから布の下着に変えた利用者もあり、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を提供したり、ヨーグルトを活用している。また腸の動きを活発にする体操も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を固定せず、入浴がお好きなご利用者には毎日入浴していただいている。	週2、3回を基本に利用者の入浴の間隔を見ながら声掛けをし、入浴の支援をしています。希望があれば毎日の入浴も可能で、入浴拒否がみられる利用者には人やタイミングを変えて無理強いせずに入浴してもらっています。入浴を楽しんでもらえるよう柚子湯や菖蒲湯等の季節の風呂を実施したり、入浴剤の使用を検討しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクを実施して日中の活動量を増やし、夜間良く眠れるように工夫している。また居室で休息したいご利用者様にはいつでも居室に戻れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が来た時に、その都度職員から薬についての質問ができるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、料理、洗濯干し、編み物、歌、将棋、買い物などご利用者様がしたいことを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の清掃、散歩、外出モーニング、ドライブランチ、おやつ外出、お買い物、ご家族様との外出、ご自宅への外出など、ご希望に応じて実施している。	事業所周辺の掃除を利用者と一緒に行ったり、毎日実施の散歩や、買い物、ドライブランチに出掛け日常的な外出の支援をしています。家族の協力があり数日間外泊する利用者がいたり、地域の盆踊り等へ参加、事業所の行事では花見に行き弁当を食べたり、初詣や紅葉狩りへ出掛ける等、外出を楽しんでもらっています。	



グループホームたのしい家西三荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設用の買い物以外、ご利用者様の預り金での個人買い物もある。職員と外出同行して、お金を出して買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月書道教室や、絵手紙教室を実施してご家族様へのお便りや年賀状をご利用者様に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節に応じた花を飾り、壁飾りは月々の変化が感じられるよう配慮している。日々温度や湿度調整を行い、不快な音を出さないよう努めている。	共有空間では利用者同士の相性を考慮して机や椅子を配置しています。リビングに生花を飾ったり、菜園やプランターで植物や野菜を栽培し、利用者に四季を楽しめる工夫をしています。共用空間の清掃も利用者と一緒にいき清潔を保っています。空気清浄器を設置し、温湿度に気を配り、快適な空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置いて、一人で過ごせる空間作りをしている。食卓の配置は、気の合う仲間が集えるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や額縁、文机や仏壇、タンス等ご入居前に使われていた愛用品をもってきていただいている。	居室に使い慣れた物を自由に持ってきてもらうよう伝え、テレビやたんす、机、ぬいぐるみ、仏壇等が持ち込まれ利用者と家族と相談し配置しています。居室の入口に職員が書いた利用者の似顔絵を掲示して、利用者の居室がわかりやすくしています。居室内にも加湿器を置き、温湿度に配慮し、快適で過ごしやすい空間を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは明るさの調整ができるように設計されている。調理器はIHを使用して安全第一を考えている。調理場も広くとり、ご利用者様と共同で作業できるようになっている。		